

しどういん

発行
厚木市青少年指導員
連絡協議会
編集 広報部会
厚木市中町1-1-3
TEL 225-2580

我が地区自慢の出し物

第16回少年少女フェスティバル

関係団体の出し物

クラフト こま マスコット (ボーイ・ガールスカウト)
缶バッチ (ジュニアリーダーズクラブ)
新聞エコバック (母親クラブ)

各地区の出し物

コリントゲーム (厚木北地区)	空気砲2013 (厚木南地区)
紙ブーメラン (依知北地区)	まんげきょう (依知南地区)
かざぐるま (睦合北地区)	竹ぶえ (睦合南・睦合西地区)
輪ゴム鉄砲 (荻野地区)	ゴリゴリプロペラ (小鮎地区)
プラトンボ (玉川地区)	スーパー竹とんぼ (森の里地区)
のぼる人形 (南毛利地区)	水てっぽう (相川地区)
ジェット機 (緑ヶ丘地区)	紙工房 (南毛利南地区)



全員集合

どれもみんな楽しいそうな手作りおもちゃ

我が地区自慢の出し物

バージョンアップ
厚木南地区 亀井 智恵

空気砲を始めてから、はや4年目となりました。毎年改良を自分で作っていたのですが、今年度は持ち手を付けてピエはママやパパが悪戦苦闘してアトル型にしました。その甲斐がありました。あつてか、多くの子どもたちがまた、ジュニアリーダーが空気砲を作りに来てくれました。また、ジュニアリーダーが子空砲を作るに連れてくれば、ほのぼのとした姿は、ほのぼのとしていて風船、トイレトペーパーの芯とても良かったです。を渡すと「どんな風にして作るの？」と子どもたちは興味津々です。自分なりに思考を凝らしデコレーションすると、自分だけのカッコいい空気砲の出来上がりです。ほとんどの小学生は自分で作っていたのですが、幼重ね、今年度は持ち手を付けてピエはママやパパが悪戦苦闘してアトル型にしました。その甲斐がありました。あつてか、多くの子どもたちがまた、ジュニアリーダーが空気砲を作りに来てくれば、ほのぼのとした姿は、ほのぼのとしていて風船、トイレトペーパーの芯とても良かったです。

ボランティア

厚木市青少年指導員連絡協議会会長 堀田 哲郎

厚木市青少年指導員2013年度の活動も始まり、5月19日(日)には第16回少年少女フェスティバルを厚木市中央公園にて実施いたしました。今年度もいろいろな団体のご協力をいただきながら1600名の入場者を迎えて盛大に開催できましたこと、心より感謝申し上げます。

話は変わりますが、先日花巻市で陸前高田市長さんの話を聞く機会がありました。奥様を津波で失われたことを小さな子どもたちに伝えるときの葛藤について涙ながらお話になる姿に、私の心も震えました。

国や県も含め、各団体からの復興支援金についても、もう少し自

文化部会員によるミニ公演を行い、終了後に舞台裏が狭いことを実感していただきました。人形の動かし方や作り方の説明を行いました。人形は塗り絵と長箸を使用しました。

7グループに分かれて、人形作りや台本作りを行い、発表してもらいました。ひとり何役の声をしたり、毒の松茸が出たりしてのオチがあり面白い発表でした。

各地区で「ペープサート」の普及ができれば幸いです。

毎日茹だるような暑さで、熱中症に怯えながら夏の行事をこなしてこられた皆さん、お疲れさまです。

どうか、涼しくなってきた今日この頃ですが、なんとか32号をお届け出来ました。どうぞ、お楽しみください。

ジュニアリーダー養成研修会について
「あつぎっ子のため」
そして、自分自身のためにも、
団体育成部会長 菅野 昭男

厚木市では、二百数十名のジュニアリーダーがそれぞれの地域で活動しています。ジュニアリーダーがあつぎっ子や地域の期待やニーズに応じていくためには、ジュニアリーダーとしての資質(理論やスキル)を向上させるために絶えず研鑽していかなくてはなりません。その一助として、各人のレベルに応じた養成研修会があります。

初めてジュニアリーダーとして活動する人のための初級養成研修会、さらに資質の向上を図るうとするジュニアリーダーを対象とした中級養成研修会、地区の会長や副会長を目指す人のための上級養成研修会、そして、初級・中級養成研修会の指導者となる人のためのカウンセラー養成研修会です。ジュニアリーダーとして活動することは、あつぎっ子や地域のためだけではなく、ジュニアリーダー自身も人として成長できるということでもあります。

ジュニアリーダーの養成のためには、私たち青少年指導員の関わりが重要であると考えます。まずはジュニアリーダーに

厚木市ジュニアリーダーズクラブ連絡協議会会長

高瀬 美志

青少年指導員の方々には、私たちが活動する際、色々な面で支えていただき、ありがとうございます。

私たちは活動をよりよいものにするために、初級・中級養成研修会のような様々な研修会を毎年行っています。そこに、よく見学に来てくださる指導員さんもおられるのですが、もつとたくさん指導員さんにも私たちがジュニアリーダーについて学ぶ場を見ていただき、指導員の

また、私たちジュニアリーダーは、地域のよいお兄さん、お姉さんとして、ジュニアリーダーの一員としての意識を高めていき、指導員の方々と共により活動を活性化させていきたいと思っています。

これからもジュニアリーダーをよろしく願います。

野外指導者養成講習会

体育部会長 三橋 正巳

ついてもつともつと理解していただき、大いなる支援をお願いいたします。地区会や各種研修会などに顔を出していただくとジュニアリーダーたちには励みになります。



ジュニアリーダーたちの決意表明

6月15日(土)、今年度は吉富先生を外部講師として招き、七沢自然ふれあいセンターの野外炊事場でピザ作りを行いました。

先生の指導に従いイースト菌や牛乳、調味料を加え、ひたすらこね、耳たぶくらいの柔らかさになったら発酵させます。

その日の気温により発酵時間が違い、当日は暑いくらいだったため、30分ほどでおよそ倍くらい大きくなりました。

生地をのし棒で伸ばしますが、なかなか丸くならず途中で妥協するの必要と感じました。ピ



講習会テーマは「ピザ作り」だ!



手作りペープサート実演中

編集後記

毎日茹だるような暑さで、熱中症に怯えながら夏の行事をこなしてこられた皆さん、お疲れさまです。

どうか、涼しくなってきた今日この頃ですが、なんとか32号をお届け出来ました。どうぞ、お楽しみください。

指導員研修会を振り返って

文化部会長 福岡典秋

7月13日(土)に七沢自然ふれあいセンターにて指導員研修会を行いました。研修内容は「ペープサート(紙人形劇)の講習」です。

小鮎篠を使って
小鮎地区 川瀬 久弥

「振動でプロペラがどうして回るの?」「どうゴリゴリしたら回るの?」「簡単に作れるからいっしょに作ってみよう!」子どもたちとのやり取り。長年、小鮎地区はゴリゴリプロペラを作っています。

長年の反省や実績をバネに、出し物を変えずバージョンアップしてきました。材料は地元・小鮎地区産の「小鮎篠」を使っています。理解ある竹林の所有者の方からご好意で提供していただき、一本、一本丁寧に加工しているのです。竹の切り出しはヤマビルとの戦いです。

準備段階からジュニアリーダーをはじめ多くの協力者により、ゴリゴリプロペラは長年、地区に引き継がれてきました。「自分たちが楽しくなければ参加者も楽しくない。」をモットーに指導員も楽しんで実施しています。

事前準備から総力結集
依知南地区 梅津 桂子

依知南地区は、恒例の「万華鏡」をつくりました。

一つの万華鏡を完成させる為に必要な部品は、大きく分けても7種類あります。役員が、半日以上かけ袋詰めセットします。

鳴らないこともあります。そんなときは私たちの出番です。キレイな音が鳴るまでドキドキしますが、最後にうれしそうな表情で「ピー」と鳴らすのを見るのが一安心です。

今年は、子どもたちに「ちょっと待ってね」と声をかけ、一人が一度に2、3人の子どもの対応をすることがかりでした。それだけ多くの子どもと、竹ぶえを作りました。たくさん笑顔を見ることができ、充実した一日でした。

大空に飛ぶジェット機
緑ヶ丘地区 多田 明弘

緑ヶ丘地区は、昨年も好評だったジェット機作りの指導をしました。

ジェット機作りには、機体を作る時の「切る」「貼る」の他に「塗る」という作業があります。ハサミをうまく使えない小さい子どもたちも、アニメヒーローや太陽などの色を塗ることで手作りする喜びを感じることが出来ます。ジュニアリーダーたちも、参加してくれた子どもたちのこうしたいというイメージをうまく会話で引き出して大変感心しました。

ジェット機を飛ばして楽しんでいる子どもたちを見て、教える喜びを感じた学ぶことの多いイベントとなりました。

す。今年も準備が間に合わず、手分けして自宅で内職をしてもらい本番に備えました。

この様に大変な苦労をしながら出来上がった「万華鏡セット」であることを是非皆さまに知ってもらいたいと思います。しかし、そんな苦労も、当日の子どもたちの「笑顔」で吹き飛ばしてしまいました。多くの子どもたちと触れ合うことができた楽しい一日でした。



準備万端いざ出陣

「プラトンボ」
玉川地区 猿渡 智恵子

玉川地区では、プラスチックを使って「プラトンボ」作りを担当しました。

材料は、身近にあるファイバーをカットして竹串を使う簡単なものですが、ハサミを使うので、小さな子どもにはハラハラしてしまいます。役員・ジュニアリーダーとフォローしながら作製しました。

紙工房はてんでこ舞い
南毛利南地区 久保 勝寿

今年はお出し物を変えて「紙飛行機・紙コップけん玉・牛乳パックの小物入れ・風船で浮く紙皿ホバークラフト」を作った楽しんでもらうことにし、コーナー名も「紙工房」としました。

しかしブース内は狭く、それぞれの作品を作り上げる難しさも完成までの時間もまちまち。「小物入れを作りたい」「ごめん、今混んでいるので紙皿ホバーはどう?」テント内は思いのほかバタバタしてしまいました。それでも楽しく作品を作っている子どもたち、一生懸命に手伝ってくれるジュニアリーダーたちを見てみると、こちらも頑張ろうという気持ちになりました。

来年は自分の作品で遊ぶ楽しさや喜びも感じてもらえるコーナーにしたいと思っています。

コリントゲーム
厚木北地区 渡辺 秀一

厚木北地区は、今年もコリントゲームを行いました。コリントゲームとは、木製の板に絵を描き、釘を数ヶ所に打ち、ビー玉を転がして遊ぶゲームです。子どもたちは、沢山の色を使いながら絵を描きます。釘がうまく打てずに何度も打ち直し

んの参加でした。子どもも楽しんで、そうに物作りに挑戦していました。カラフルなマーカーを用意して、模様も書いてもらい個性の出た世界で一つだけの「プラトンボ」ができました。

出来上がった「プラトンボ」を飛ばし、遠くまで飛んだ時の子どもの喜ぶ顔はとても嬉しそうで、ほのぼのさせてくれました。

自慢のジュニアリーダー
陸合北地区 飯島 英治

今回初めてフェスティバルに参加させて頂き、一番に感じたことは、ジュニアリーダーが自分から進んで小さい子どもたちに「かざぐるま」の作り方を優しく教えていることです。「小さな子どもにもモノ作りを教える。」ということとは、とても難しいことだと思っていたからです。

そのジュニアリーダーの活躍が、自分の中で一番の自慢です。そんな、ジュニアリーダーや、他の指導員、OBの皆さんの協力で、フェスティバルは無事に終わりました。

また、初参加の自分に対して、優しくいろいろ教えて頂いた皆さんにとても感謝しています。次のフェスティバルでは、ジュニアリーダーに負けられないように、時間をかけて仕上げます。作品が完成すると皆とても満足した顔で帰って行きます。「上手にできたよ!」と教えてくれる子がいて、私たちもうれしくなります。

子どもたちの未来も自分で自由に、思い通りに描いてほしいと願っています。もし、悲しい事や困難な事に遭い、目の前が暗くなってしまう時、そっと灯をともしあげられる様な青少年指導員を目指して頑張っています。



上手にできたよ!

ものづくりの楽しさ
森の里地区 馬場 富親

森の里地区のものづくりは、「スーパードラゴンボ」です。これを作るには、子どもたちが日常使う事が無い、刃物や火を使いますので、集中力と緊張感を持って取り組んでいきます。刃物を操る力加減に苦労しながら竹の羽を削ります。初め

うに頑張って参加したいです。そして、危険な工具や作業で、子どもたちにケガがないように全力でサポートできたと思います。

「今時の若い子は...」
荻野地区 八田 薫

荻野といえば、ジュニアリーダーの多さです。多いだけではなく、大人や、先輩たちに頼る前に自分たちの役割を把握し、考えて行動できます。

今回の少年少女フェスティバルでは、大人である私たちの方が、逆に配慮が足りず、反省会で指摘を受け、考えさせられました。小さな子どもたちに丁寧に教える姿は、安心して見ていられます。

「今時の若い子は...」なんてよくいいますが、「今時のジュニアリーダーは凄い!」と将来が楽しみに思えた一日でした。

ジュニアリーダーの活躍
相川地区 杉山 ひさし

相川地区の自慢は、当日の主任になるジュニアリーダーです。今年七名が水鉄砲づくりの講師を務めてくれました。作業前に子どもたちの名前を聞いて、時間をかけて仕上げます。作品が完成すると皆とても満足した顔で帰って行きます。「上手にできたよ!」と教えてくれる子がいて、私たちもうれしくなります。

子どもたちは、困難な作業を通して、一つのものを作り上げて楽しさを学びとっていきま

す。その為に私たちは、来年も笑顔で子どもたちを迎えたいと思います。

「飛んだ、紙ブーメラン」
依知北地区 津田 信二

今年は、ブーメランの材料となる紙にこだわり、風に負けない厚手のものに変えました。また、「左利き用のハサミはないの?」との要望に応えるために左利き用のハサミを用意するなど、準備万端でフェスティバルに臨みました。

子どもたちは、厚手の紙に少し戸惑っているようでしたが、紙に型をなぞり、上手にハサミを使って一生懸命に切り取ると、マジックで好きな色を塗ったり、模様を描いたりして、素敵なブーメランの出来上がり。自慢のブーメランを飛ばして、無邪気に遊ぶ子どもたちの

いて、「ちゃん(君)...」と話しかけながら作り方を優しく教え、出来上がると一緒に喜ぶ姿からは、子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらいたいというジュニアリーダーの想いがひしひしと伝わってきました。



手作り水鉄砲発射

商売繁盛!
陸合南地区 建部 圭一

竹ぶえ作りには、固い竹をカッターナイフで削る作業があります。私たちも、子どもの成長段階に応じて「作り方を教えて見守る」「少し手伝う」「ほとんどこちらで作る」など対応を変えています。大きな音が鳴る竹ぶえを作るにはコツがあります。お父さんが、慣れない作業で一生懸命作っても、なかなか

姿がとも印象的でした。紙ブーメランのコーナーは、準備の甲斐もあり、最後まで多くの子どもたちで賑わいました。

フェスティバルに参加して
南毛利地区 佐野 央

私は、仲間とともに「のぼる人形」の作成を事前に練習し、当日参加した子どもたちに作成の指導をしました。

今まで子どもたちやそのお父さん・お母さんと接する機会などなく、子どもたちの驚いた表情や笑った表情と、お父さん・お母さんの嬉しそうな表情を見ていて私も非常に楽しく接する事が出来ました。

大人と子どもが一緒になって物を作り、そこからコミュニケーションが生まれる事を再認識いたしました。



大人と子どもで一緒に作ろう